

グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第105号 2026年3月15日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

ネパール

吉田 隆

2025年11月、ネパールの首都カトマンズで開催されたPAM（ペンテコステ・アジア宣教会議）に出席するために、同地に赴きました。カトマンズは標高1400mの高地にあるため、涼しく空気が薄い場所です。首都でもあり、自動車の数が多いのですが、信号がほとんどなく、警察官が立って交通整理をしていますが、至る所で渋滞が起きていました。

ネパール 吉田 隆	1-3
結婚感謝の証 吉田成就	4
宣教と霊的な戦い⑥ 吉田恵利子	5
感謝とご報告・祈りの課題	6



PAMの参加者

ネパールでPAMが開催された経緯

南アジアと呼ばれる地域があります。インド、ネパール、スリランカ、バングラデシュ、パキスタン、ブータン、モルディブの7か国が南アジアに属しています。(日本は東アジアに属します。)

さて、スリランカの首都コロンボで2022年に暴動が起きました。そして2024年バングラデシュのダッカで暴動が起きました。実は2025年のPAM会議はバングラデシュ・ダッカで行われることに決まっていた。しかし、強権政治を続けていたハシナ首相が学生デモの嵐の中でインドへ逃亡し、退陣に追い込まれました。この暴動の余波が続いており、テロや暴動が起る不安要素があるため、ダッカでの開催は、変更した方が良くとの意見が出されました。南アジアの別の国での開催が検討され、今回はネパールで行おうという変更が7月に決まったのです。

ところが、ネパールのカトマンズで2025年9月8日、「Z世代」と呼ばれる10～20代の多くの若者(警察発表で約1万2千人)が、SNSの利用を禁じる政府の措置と政治家の腐敗や汚職に抗議するデモに結集しました。警官隊との衝突による死者が70人を超える中、血の弾圧を非難されたオリ首相は9日、辞任に追い込まれました。

急遽PAMを11月にカトマンズで行うこと



ネパールのムクンダ師

ができるかどうかについて、Zoomの会議が行われ、ネパールのムクンダ牧師が国情を説明して下さり、ネパールで会議の開催を強行することが再決定された次第です。

南アジアなどの若者の力

南アジアの国々の多くは、かつての大英帝国領のインドでしたが、第二次対戦後に、それぞれの国のリーダーたちによって独立しました。今回のPAMの中で、最近連続して起こっている若者による暴動について一人の講師が言及しました。「暴動や政権の転覆について賛否を述べるつもりはないが、SNSによって若者たちが行動を起こすという現象は10年前には考えられなかったことである。こうした力を福音伝道に注ぐ方法を私たちは考えなければならない！」

歴史的に見ると、過去においては、軍によるクーデターなどによって政府が転覆することはあっても、民衆の情報交換によってそうしたことが起こることはありませんでした。ですから、危険な手段としてSNSが用いられる心配がある一方で、福音のためにこれを生かす可能性が秘められていることを考えなければなりません。

迫害の現実

パキスタンの代表者は、イスラムによる迫害がクリスチャンの信仰にいのちの危険をもたらしている現実を訴えました。聖霊が注がれ、福音が前進するところでは、それを阻むものがあります。その中でも顕著なのがイスラム教と共産主義ですが、普通穏健と見られている仏教などもスリランカではキリスト教会を迫害



PAM理事会

ネパールの青年たちによるダンス

しています。

ネパールのリバイバル

伝統的にヒンズー教国として閉鎖的な国であったネパールは、1951年に於いてはクリスチャンの数はゼロでした。2008年に王政を廃止、2015年に国教であるヒンズー教を廃止して、世俗国家へ転換しました。依然として、キリスト教に対する圧迫はあるものの、現在イエス様を信じる人々の数は飛躍的に増えていると言われています。ある牧師によればクリスチャン人口は5%以上に増えたであろうとのことでした。

一つの証をご紹介します。ジャガット・グルンさんが3か月の短期聖書コースに参加した時、特に熱心だったからではありませんでした。18年間の結婚生活の間子どもが与えられませんでした。神はジャガットさん夫妻の祈りに応え、奇跡的に息子を授けてくださったのです。ですから、感謝を示す意味でコースに参加したのでした。研修の最後に、参加者は福音を伝えたい人々のリスト25人を書くように言われました。ジャガットさんは静かにリストを書き上げましたが、その後起こることを予想だにしていませんでした。

村に戻ったある夜、予期せぬ出来事が起こりました。真夜中、地元のある家族が病院から戻って駆けつけて、ジャガットさんに驚くことを伝えました。その家族の息子は末期の肝臓がんで、首都カトマンズの病院の医師は「もう手遅れ」と宣告したのです。絶望したその家族は「クリスチャンが祈ると、その神は癒す」と聞きました。そこで、クリスチャンであるジャガットさんに助けを求めて来たのです。そこで彼は強い信仰を



ジャガットさん

もって家族にこう告げました。「息子さんのために祈る前に、まずあなた方がイエス・キリストを信じ、受け入れてほしい。」絶望していた家族は、心に湧き上がる深い何かに触れられるのを感じ、家族全員がその夜イエス様を受け入れました。

その家族には、家に帰るよう伝え、翌朝祈りに行くこと約束しました。その後1か月間、彼は毎日その家を訪れ、揺るぎない信仰をもって祈り続けました。そして神の恵みにより、その息子は癌から完全に癒されました。そして再び首都の病院で検査を受け、完全に癒されたことが証明されたのです。

この奇跡は転機となりました。少年とその家族だけでなく、ジャガットさん自身にとってもです。彼は訓練中に書いたリストを思い出しましたが、その一番目にこの家族の名前を書いていたことを思い出しました。そこでリストにある名前の人々に一人ずつ福音を伝え始めました。

今日、ジャガット・グルンさんは地元の教会で牧師を務め、自らを救い、変えたイエス様、人々を癒すことのできるイエス様へと人々を導き続けています。



この度、私、吉田成就はJ E Cヒルズチャーチの田口佳奈さんと2月21日に結婚致しました。皆様のお祈りによって、この恵みと祝福にあずかることができたことを感謝いたします。

献身を決めて神学校に入学した時、私は25歳でした。神学校に入って学ぶなら、「結婚なんて考えている暇はない！ひたすら神様と向き合って聖書を学ぶんだ！」と意気込んでいました。ところが入学して学び始めると、幾人かの先生がこう仰るのです。「神様の働きをしていくにはパートナーが必要です。パートナーがいない人は今から祈ることをお勧めします」。また、課題図書『マケドニアの叫びに答えて』を開けば宣教師の先生も同じように語っているのです。3年間の学びを通して、献身者の実態、パートナーの重要性を正しく学ぶことができました。当初は結婚について考えるのは学びの邪魔になると思っていました。しかし、どうやら結婚の為に祈る必要があると思い、「良いパートナーが与えられるように」と祈り始めたのです。

さて、入学当初私は献身の思いに満ち満ちていました。「何でも奉仕します！」という気持ちで、神学校生活を送っていました。何かが足りない時は「あ！取りに行かなければ！」食器が割れてしまった時は「掃除機を！箒と塵取りを！」エネルギーが有り余っていた私は誰よりも早く動くよう努めていました。しかし、そこには必ずある姉妹がいました。それが田口佳奈さんでした。私が必要だと考えるよりも先に、又は同じタイミングで佳奈さんは動いており、しかも喜んで奉仕をしていました。常に笑顔に溢れ、いつも神様からみことばを受け取って、喜びながら賛美するこの姉妹の姿を見て、私は「このような人がパートナーであれば良い助け手になってくれる」と思いました。そして、彼女のことを

祈り始めました。神学校生活3年間を通して祈り、卒業と同時に佳奈さんとのお付き合いが始まりました。

神学校を卒業する時、私はこれから進むべき道について悩んでいました。卒業後に自分の教会に来て頂きたいと、幾つかの教会からお招きをいただきました。主のみ心を祈りましたが、確信が与えられませんでした。同級生たちは次に進む道がはっきりする中で、私だけが何も決まっていないという状態でした。私は神学校を卒業してから、祈りながら幾つかの教会で奉仕をしたり、インターンをする事になりました。たくさん学びがあったり、色々な方との交流が深まったり、主の偉大さを味わえた感謝な時でした。けれども同時に、依然ビジョンが与えられず、私は苦しい気持ちでいました。しかし、きっと私よりもそのような私と交際をしていた佳奈さんの不安の方が大きかったと思います。

佳奈さんはずっと祈り励ましてくれました。お互いが語られたみことばを分かち合い、いつも「周りの人ではなく、神様が願う奉仕をしよう」と確認して私を後押ししてくれました。今は開かれた道を進んで、水の流れるようにここまでやってきました。しかし振り返れば、全て神様が導いて下さり、益として下さったと思うことばかりです。30歳になりましたが、多くの方が祝福して助けてくださり、この結婚まで導かれました。また、グレートコミッションを読んで、皆様がお祈りくださり、今日に至ることができました。奉仕やインターンに招いて下さった殆どの方が、グレート・コミッションの祈禱課題を読んで私を受け入れてくれたのだと教えてくださいました。1つの祝福の背後には、その何倍もの祈りが隠れていることを覚えます。ですから、“神の恵みと、皆様の祈りによって生かされている”と実感しています。これからもどうぞ、祈りの片隅に私たち夫婦のことを覚えてお祈り頂ければ幸いです。



香港の最初の2年間の、次々と起こる試練について100号～104号迄記させて頂きました。皆様のお祈りにお支え頂き、守られて来ました事を感謝致します。

前々回(103号)に産後3か月経っても体調が悪く、病院で手術後、帰宅して、トイレの上水管(海水)が破裂し床上浸水状態になり、塩害で観葉植物まで一気に枯れ、気丈にしていた私の心も萎えてしまったお話を記させて頂きました。

さて、その当時香港では時間に関係なく早朝から夜間まで工事の騒音が続きました。アパートの隣りの家や、同じフロアで改装工事が続いて、上の階、下の階、次から次へと、どこかで工事をしていました。工事に伴い、アパートの玄関のドアの隙間から風圧で塗装のペンキの粉が吹き込んできます。強いシンナーの匂いが漂い、ドリルでコンクリートの壁を削る大きな音も響いてきます。毎日どこかの家で工事をしていて、その騒音にも悩まされました。大きな音が体に響いてきます。体調が悪いとなおさらです。

そんな最初に住んだ家から引っ越す時が来ました。その時も体調不良が続いていました。香港ではアパートの契約期間は2年でしたが、ちょうど2年が経って初めの契約が終わり、アジア・アウトリーチのオフィスが変わる事もあり、教会とオフィスに近いところに引っ越すことになりました。

不動産屋さんとアパートを決める時に、そのアパートの目の前に小さな公園のような空き地がありました。そこに住むことを決める前に、不動産さんに「その公園のような空き地には建物が建つのですか？公園はそのままですか？」と確認しました。不動産さん

は「そこはそのままです。何も建つ予定はありません」と答えました。

そこで私たちはそのアパートを契約し、入居しました。すると直ぐに、目の前のその空き地に、高層ビルを建てる大きな工事が始まりました。大掛かりな地面を掘る掘削土木工事や建築工事の音が、目の前から響いてきます。体に振動が伝わってきます。健康な時でも大変な音ですが、体の具合が悪いと、それはもう耐えられない騒音です。工事現場の真ん中で寝ているような気分です。

そんな時、出産後の問題で病気が酷くなり、入院することになりました。入院して治療することは大変なことでしたが、ただひとつ希望の光がありました。やっと、静かなところで眠れる、と。

ところが、です。いざ入院して病室に通されると、なんとその病棟は工事中で隣の部屋のコンクリートの壁をドリルで削る騒音に打ちのめされてしまいました。「なんと病院までもが！主よ、あんまりです！」と、私は神様に心の中で叫びました。

すると神様は私の心にこう語られました。「あなたは周りや環境の問題に心がとらわれています。あなたは、わたしの中で安らぎなさい。」私ははっとして、心の中で祈りました。「あなたは、このことを私にお教えになるために、この問題をお許しになったのですね。主よ、わかりました。」

それから私はその騒音の中で、主にある平安をただいて過ごすことができました。今でも騒音はとても苦手ですが、大きな騒音がすると当時のことを思い出します。

吉田恵利子絵画個展 風のしらべⅦ

2026年6月9日(火)～14日(日) 12:00～19:00

(最終日は17:00まで)



ギャラリー

ヒルゲート 1F

〒604-8081

京都市中京区寺町三条上ル天性寺前町535

TEL 075-231-3702(1F)

URL <http://www.hillgate.jp>

感謝とご報告

- 吉田隆宣教師は、2025年11月2日から7日まで、ネパールを訪問しました。期間中PAM(ペンテコステ・アジア宣教会議)の理事会、大会に出席のほか、Go forth Asiaの働き人や日本から送られている神戸宣教師と交わる機会を持ちました。(本誌P1-3)
- 吉田恵利子宣教師は、11月末から12月にかけて予定していた滋賀県・大津市坂本の楽心庵に於けるクリスマス個展を健康のことを留意して中止を決断しました。その代わりに、フィンランド宣教師のモノネン夫妻の提案により、フィンランド・クリスマス・フェアという新しい形の催しを企画し、出展しました。その中でミニ個展を開催し、フィンランド・クリスマス・クッキーの作り方を教えました。
- 昨年後半、グレイト・コミッションの会計が逼迫しており、お祈りをお願いしておりましたが、年末までに重荷をもってご献金をお送りくださいましたので、会計収支をプラスにて2026年に入ることができました。心から感謝します。詳しくは同封の会計報告をご覧ください。
- 吉田夫妻の三男成就兄は、2月21日(土)にJEC八尾福音教会(大阪府八尾市)にて、JECヒルズチャーチの田口佳奈姉と結婚いたしました。
- 吉田恵利子師は、昨年病気のため体調を考慮して京都水彩展に出品できませんでしたが、今年は出品をし、京都市教育長賞を受賞いたしました。お祈りを感謝します。

祈りの課題 (以下の祈禱課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- 吉田隆宣教師と次男の宣教兄は、3月18日(水)から25日(水)まで、バングラデシュを訪問します。主な目的は、日本からの援助で建設している会堂未設置の村に第二番目の会堂が完成したので、その献堂式に参加するためです。加えて、第三番目の会堂の鋳入れ式が行われるならば、幸いであると祈っています。このための献金が与えられるようにお祈りください。(このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「バングラデシュのため」とお書き添えください。)HOP(ホーム・オブ・ピース)の働きにも参加予定です。
- 吉田恵利子宣教師は、2026年6月9日(火)から14日(日)まで、京都市役所の近くにあるギャラリー・ヒルゲートにて吉田恵利子絵画個展“風のしらべ”XIIを開催します。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師の宣教30周年記念と結婚40周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画が立てられています。しかし、イスラエルの情勢不安、更に円安のために聖地への旅行が難しく、現在のところ、延期されております。戦争の早期完全終結、政情の安定と旅費の予算が満たされますように。(このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。)